

令和3年度第1回三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進協議会議事録

1 開催日時 令和3年11月19日 14:00~16:10

2 開催場所 三重県合同ビル 2階G201会議室

3 出席者数 出席10名 欠席5名

4 内容〈事項〉

(1) 会長・副会長の選出について

(2) 三重県ユニバーサルデザインのまちづくり条例および施行規則の改正について

(3) 「第4次三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進計画(2019-2022)」の
取組、「第5次三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進計画(2023-2026)」
について

(4) ヘルプマークの普及について

(5) 三重おもいやり駐車場利用証制度について

(6) その他

5 概要

(1) 会長・副会長の選出について

委員の互選により、会長は白石委員、副会長は松井委員となった。

(2) 三重県ユニバーサルデザインのまちづくり条例および施行規則の改正について
委員意見なし

(3) 「第4次三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進計画(2019-2022)」の
取組、「第5次三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進計画(2023-2026)」
について

【委員意見】

・計画と予算はセットになると思うが、次の計画が決まらないうちに計画初年度の
予算は決まることになるので、初年度は計画の実行は難しいのでは。

→ 現計画の3つの施策の基本的な考え方は変わっていくものではないので、今進
められている事業の基本のベースは踏まえながら、新しい計画の新たなポイン
トを加え、予算が構築されていくこととなります。

・ソフト面の実績値が下がっており、コロナの影響もあるとのことであったが、with
コロナに対応する方策は考えているか。

→・接触が無くても啓発をできるように、動画を活用するなどの対応をしています。
いろいろな意見を頂きながら、さらに啓発を進めていきます。

・人口の3%は外国籍の方であり、アンケートを取る対象者に加えて、そういう方々の視点も取り入れてほしい。

・UDを進めるにあたってハード面はわかりやすいが、心のバリアフリーはなかなか進まないのが現実であり、予算ではそういうものも進められる形であればいいと思う。

→・アンケートの取り方については、対象者に外国籍の方が含まれるか等、どういう状況か調査し検討していきます。

・ハード面、ソフト面一体となって進めていくことが大切なことと考えています。
第4次推進計画では重点的にヘルプマークの啓発を進めており、引き続き進めていくとともに、学校出前授業など次世代育成のアプローチを充実していきたいと考えています。

・宿泊施設、飲食店、観光案内所などの観光施設で心のバリアフリーを推進するため、研修などを実施し申請すると、認定マークを表示できるようになる制度を、観光庁で昨年度から受け付けている（「観光施設における心のバリアフリー認定制度」）。推進計画の目標値のひとつに、認定施設数を取り入れてはどうか。

・第4次推進計画のハート、ハード、ソフト面の達成状況について、自己評価をするとどうか。

→・ハート面については、ヘルプマークの配布数も堅調であり、認知度も80%を超え、比較的進んでいると思います。

ハード面については、事業者の協力も得ながら、鉄道駅のバリアフリーを進めています。

・第5次推進計画では、3本の柱（ハート、ハード、ソフト）のなかでの比重比率について、どれを重点的にするか、どのような扱いとするか、県としてのスタンスはあるか。

→・協議会での議論を踏まえてになりますが、ハード面では国が策定したバリアフリー法に基づく基本方針の整備目標のなかで県として課題となるところを、意識面では「ヘルプマークを知ってはいるが、『思いやりのある行動』につなげていけるか」というところを、その他の課題を含めてバランスよく進めていきたいと考えています。

・ヘルプマークを普及させるだけでなく、これを踏まえて意識を普及させる活動と

評価が必要であるということか。

→・そういうことです。

(4) ヘルプマークの普及について

【委員意見】

- ・ポスターを路線バス車内で掲示しているが、それだけでなく、これからも出前講座などを積極的に進めて頂きたい。

- ・出前授業で子供のうちからUDの意識をつけるのは大事かと思うが、教材を配布したりしているか。子供を通じて保護者にも広がっていくかと思う。
 - ・ユニバーサルデザインについて具体例を入れて解説した20ページ程度の冊子を配布しています。
- ・バスの車内などで配布できないか。
 - ・印刷部数が少なく、バス車内での配布は難しいです。
 - ・三重県ホームページにも掲載しています。
- ・ホームページはなかなか見ないので、地域の回覧板に挟むほうが見てもらえる機会が多いと思う。
 - ・市町の広報誌に掲載を依頼しており、先日、名張市の広報にヘルプマークについて掲載してもらったところ、多くの問い合わせを頂きました。このように直接住民の方に見てもらえることができたら良いと考えています。

- ・今日電車で気分が悪くなったが、初めて隣の人が「大丈夫ですか」と声をかけてくれた。でも、あとの人は気が付いていても見ない。学校で子供にわかしてもらうのも大事だが、子どもは親の背中を見て育つので、大人への啓発も大事だと思う。ショッピングセンターなどでいろんな人の目に触れ、体験してもらい、身近な話題になることで、声掛けしやすい気持ちに繋がっていくと思う。

(5) 三重おもいやり駐車場利用証制度について

【委員意見】

- ・車いす利用者が停められない2.5m幅のところを「おもいやり駐車場」になるというのはおかしいのではないかという視点もある。スーパーでは大体3.5mしかない。認識を広げる必要がある。3.5mと違っていくと実は使えないといった苦情もでるのではないか。
 - ・全て3.5m幅とするのがベストです。しかしながら、おもいやり駐車場が足りないという状況で、3.5m幅は必要ないが利用証をお持ちの人を2.5mの区画に誘導することで、少しでも車いすをお使いの人が3.5mの区画を利用しやすくしようという意味のキャンペーンです。

- ・例えば 3.5m幅を青に、2.5m幅を緑に色分けすれば、だれがみてもわかるのではと思う。
- ・多くの施設は 3.5m 幅のところには車いすマークがあり、そこにおもいやり駐車場の指定をかぶせており、そこでわかる場面が多いのではと考えています。

- ・地べたに書いてあるだけでは行ってからしか分からないので、高い看板で表示するなどしたほうがいい。
- ・2.5m幅と 3.5m 幅の駐車場を別の名前にして誘導してはどうか。

- ・妊産婦の方は 3.5m 幅が空いていたら停めやすいので停めてしまう。色分けや看板を立てるのもいいが、多くの施設がまだまだ用意できないものなので、配布するときに徹底するように言ってはどうか。

- ・他県では 2.5m 幅と 3.5m 幅を色分けしている例もあるが、三重県ではこのような制度設計でこれまで進められてきている状況であり、これから色分けをしてもらうのは管理者の方に負担となるので、まずはおもいやりの駐車区画を増やしてもらうことから始めていただきたいと考えています。

- ・後期高齢者が増加する 2025 年問題というのがあり、その時は利用証を持つ人が多くなり、2.5m 幅でいいという人が増えてくると思われる。それまでに何かの対策を講じたほうがいいと思う。

- ・3.5m幅の車いす駐車場と 2.5m幅のおもいやり駐車場を作りたいという話があり、両方おもいやり駐車場とした場合、3.5mのほうに妊産婦さんとか 3.5m幅の必要のない人が停めてしまった時にどうすればいいかという疑問があり、結局 3.5m幅を二つ作って頂いた。でも車いすの人たち用の駐車場をちゃんと作ってあげたいという思いがあり、やはりおもいやり駐車場と（おもいやり駐車場でない）3.5m幅の車いす対応の駐車場を作っていることを考えているということであった。事業者としては客に車いすの人がきたら車を移動してとは言いにくいので、その辺をすごく心配されていて、大きな課題かと考えている。

(6) その他

【委員意見】

- ・意識さえあれば、ハード面、ソフト面にUDの考えが通じるので、一番は意識づくりだと考えている。

- ・ 出前講座をやるときは小冊子を配り、家でも親御さんに必ず見てもらうように伝えている。
- ・ コロナ禍でイベントが少なくなり、ユニバーサルデザインアドバイザー養成講座を受けても、実際の活動をしてもらえない。
- ・ 学生のボランティアも減っているが、学生が短時間でも関わりやすいような制度について、何かヒントのようなものを頂ければと思う。

- ・ 皇学館大学にはボランティアルームというものがある。(ボランティア依頼者と学生をつなげる役割をしている。)
- ・ 専攻には福祉のコースもあるが、専攻体系による学生の意識の違いはある。
- ・ 学生の「助ける」という行動が十分出てこないことについて、殻を破ってやるように積極的に協力してやることは必要だと思っている。

(以 上)